姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第 75 集

辻井遺跡

―第39次発掘調査報告書―

調査地（南西から）

2019

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯・事業の経過

姫路市北今宿二丁目 177 番 2 において、宅地造成工事が計画された（図 1・2）。計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である辻井遺跡（県遺跡番号 020162）に近接することから、平成 30 年 2 月 20 日に工事に先立ち試掘調査（第 38 次調査・調査番号：20170500）を実施したところ、柱穴等の遺構を検出するとともに土師器・須恵器が出土した。この結果、辻井遺跡が従来の範囲より南に広がることが明らかになった。その後、事業者と協議し工事範囲である 52.5 ㎡を対象に本発掘調査を実施することとなった。平成 30 年 3 月 19 日に協定書を締結し調査を開始した。現地調査（調査番号：20170550）に要した期間は、平成 30 年 3 月 23 日から 3 月 31 日であった。現地調査終了後、整理作業及び発掘調査報告書の作成を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。調査体制は以下のとおりである。

姫路市教育委員会
教 育 長　中杉隆夫（平成30年3月31日まで）
　　松田克彦（平成 30 年 4 月 1 日以降）
教育次長　名村哲哉
生涯学習部
部　　長　岡田俊勝

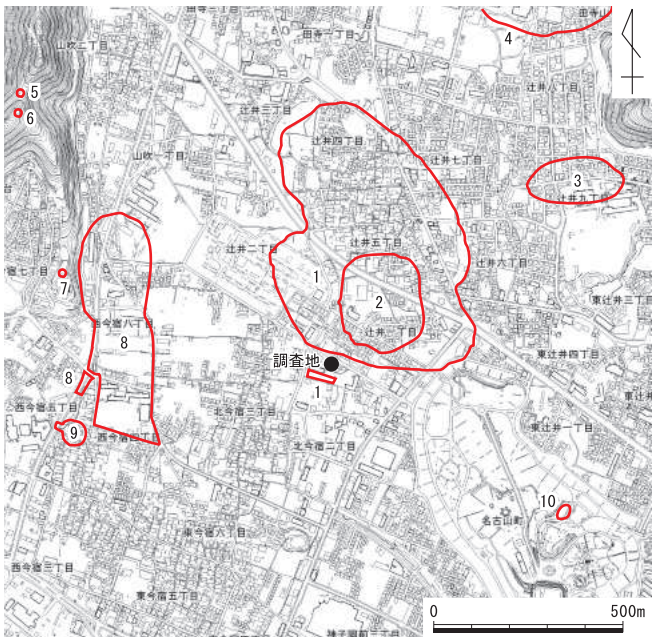
文化財課
課　　長　花幡和宏
課長補佐　大谷輝彦（調整）
技　　師　黒田祐介（調整）

埋蔵文化財センター
館　　長　前田光則
課長補佐　岡﨑政俊（庶務）
係　　長　森　恒裕（調整）
技術主任　南　憲和（調査・整理）

2. 遺跡の周辺環境

辻井遺跡は縄文時代中期から弥生時代及び奈良時代の集落遺跡である。既往調査により縄文時代後期とみられる土坑や、晩期の土坑墓が確認されているが、集落の中心時期は弥生時代中期後半（Ⅳ期）とみられ、竪穴住居跡、溝等が検出されている。集落は弥生時代後期（Ⅴ期）まで存続するが、中期に比べると遺構数は減少し、庄内併行期に入るまでに消失するとみられている。白鳳期から奈良時代には辻井廃寺が存在した。遺跡の南東側に位置する名古山には弥生時代中期後葉（Ⅳ期末）の名古山遺跡が所在する。名古山遺跡では竪穴住居跡・土坑墓・壺棺等が検出され、竪穴住居跡からは袈裟襷文銅鐸の石製鋳型片が出土しており銅鐸製作工房の可能性が指摘されている。

辻井遺跡は東西を旧河道に挟まれた微高地上に立地することが既往調査等により確認されている（註 1）。これらの旧河道は遺跡の南で交わり名古山西麓を南流するとみられており、調査地は微高地の南端部にあたると想定される。



1. 辻井遺跡　2. 辻井廃寺　3. 山崎山 1 号墳～ 7 号墳　4. 大谷口遺跡　5. 蛤山 3 号墳
6. 蛤山 2 号墳　7. 蛤山 1 号墳　8. 山吹遺跡　9. 今宿遺跡　10. 名古山遺跡

図1　辻井遺跡と周辺遺跡（S=1：20,000）

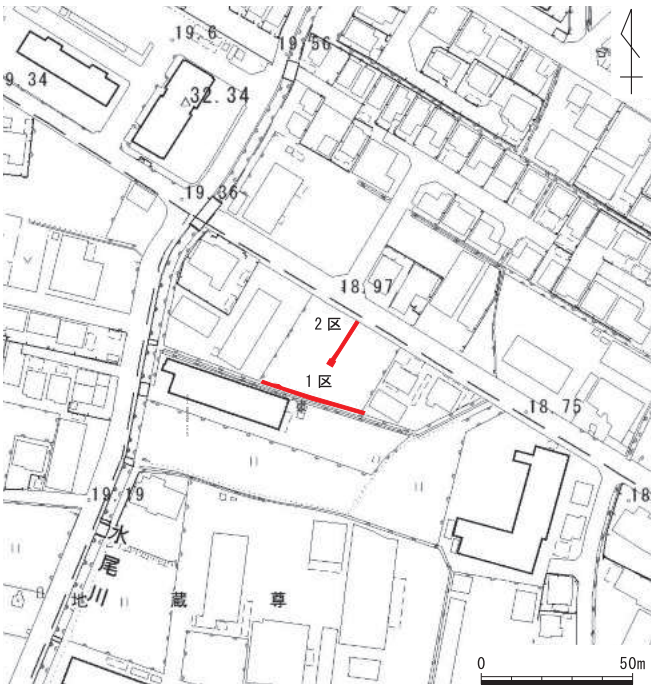


図2　調査区位置図（S=1：2,500）

3. 調査の成果

調査区は調査地南辺のものを 1 区、北辺中央部から南に延びるものを 2 区と呼称した（図 2)。調査地は 1 区東端から西へ約 8m までの範囲を除き大半が旧河道及び低地に位置しており、1 区東端部では耕土(約 20 ㎝)、にぶい黄色シルト質粘土(約 5 ㎝)を経て、T.P. 18.1m で明黄褐色シルト質粘土～オリーブ黒色粘質土(基盤層)に達した。遺構は基盤層の上面で検出した。検出した遺構は、1 区では溝 3 条(SD01 ～ 03)、旧河道 1 条(SR01)、ピット 4 基（SP01 ～ 04)、2 区では旧河道 1 条（SR02）である（図 3)。

(1) 1 区の遺構・遺物

遺物包含層　1 区の東端付近を除く範囲で確認された（図 4)。その東端付近で須恵器壺または甕（図 6-1)、土師器把手（同 2）が出土した。1 は奈良時代以前、2 は古墳時代に属すとみられる。

溝　SD01 ～ 03 は旧地形が西に下降する範囲に位置する（図 3)。SD01・03 は幅 30 ㎝前後、深さ 10 ㎝を測る小規模なもので、断面形は U 字形を呈す。遺物は出土しなかった。SD02 は SR01 東端と重複しており、土層断面から SR01 埋没後に掘削されたことが判明した(図 4)。幅 55 ㎝、深さ 30 ㎝を測り、断面形は U 字形を呈す。埋土は 2 層に分かれ、下層から弥生土器高杯（図 6-5）が出土した（図 3・写真図版 1)。ラッパ状に開く脚端上部に 8 ～ 9 箇所の穿孔を有し、脚端部はわずかに拡張される。中期(Ⅲ～Ⅳ期前半)に属すとみられる。ただし、SD02 の時期は後述する SR01 に後出するため、古墳時代以降と考えられる。

なお、弥生土器の甕（図 6-3)、小形多孔土器（同 4）は、SD02 と SR01 の切合いを把握する目的で設定した断割内から出土したものである。3 は胴部から口縁部が水平方向に屈曲し端部は上方に小さく拡張される。灰褐色を呈し胎土に雲母を比較的多く含むため搬入品と思われる。後期（Ⅴ期）から庄内併行期に属すとみられる。4 は側面に直径 3 ～ 7 ㎜の小孔が 29 箇所、底部に径 4 ㎜前後の小孔が 10 箇所に穿たれる。(註 2)。中期のものと思われる。

旧河道　1 区の東端付近を除き広範囲に認められる灰黄褐色粘質土（図 4-19 層）以下を SR01 とした。その東端部、中央部、西端付近にトレンチ（ｻﾌﾞﾄﾚ1 ～ 3）を設定し堆積状況を把握した。ｻﾌﾞﾄﾚ2 では検出面から 1.0m まで掘削したが河道の底に達しなかった。ｻﾌﾞﾄﾚ1･2 では河川堆積層(砂質シルト～砂質土)を確認したが、ｻﾌﾞﾄﾚ3 ではこれが確認されず基盤層とみられる黄褐色砂質シルト(図 4-26 層)及び固く締まった砂礫(同 27 層)が現れた。このため SR01 の西端はｻﾌﾞﾄﾚ2・3 間に位置するとみられる。遺物はｻﾌﾞﾄﾚ1 の灰黄褐色砂質シルト～砂質土から弥生土器甕（図 6-6)・壺等の把手（同 7)・鉢（同 8)・高杯か鉢の脚部（同 9)、灰オリーブ色粘質土から弥生土器壺（同 10）が出土した。6 は平底の底部を有し外面に右上がりの平行タタキが施される。7 は外面に 5 条のヘラ描き直線文がみられる。8 は杯部の先端が折れ曲がる。9 は脚端部が断面三角形状に拡張し外面に鋸歯文が施文される。10 は口縁部が湾曲しながら外反し端部は下方に肥厚する。これらは中期(Ⅲ期）から後期（Ⅴ期）に属すとみられる。

ピット　SP01 ～ 03 はいずれも径 30 ㎝前後を測る（図 3・4)。SP01・02 から土器極細片が出土した。

(2) 2 区の遺構・遺物

旧河道　SR02 は 2 区全体に及ぶ（図 3・5)。埋土（図 5-9 層以下）は北西から南東に下降する。南端部では検出面から 1.0m 近く掘削したが河道の底に到達しなかった。灰黄色シルト質細砂（図 5-13 層）から古墳時代の須恵器杯蓋（図 6-11）が出土した。

4. 総括

調査の結果、調査地の南東部は微高地上に位置し、溝（SD01 ～ 03)・ピットが検出された。このうち SD02 は旧河道 SR01 に後出するもので、古墳時代以降のものとみられる。微高地の外縁部には旧河道（SR01・02）が位置し、出土遺物からみて弥生時代後期から古墳時代までは流路であったと考えられる。

註 1　姫路市 1998『姫路市史 第七巻上 資料編 自然』姫路市、大谷輝彦 2010「辻井遺跡 2」『姫路市史 第七巻 資料編 考古』姫路市のほか姫路市教育委員会の既往調査による。

註 2　間壁葭子 1998「「古代出雲と医学」への覚書きースクナヒコナの羽根・扁鵲・小形多孔土器ー」『神戸女子大史学』15 号によると、小形多孔土器の出土例は近畿地方に多く、拠点的な集落跡で発見されているとされる。内部に灰状及び白色の固形物が付着する例が知られるが、今回の資料には確認されなかった（写真図版 2)。

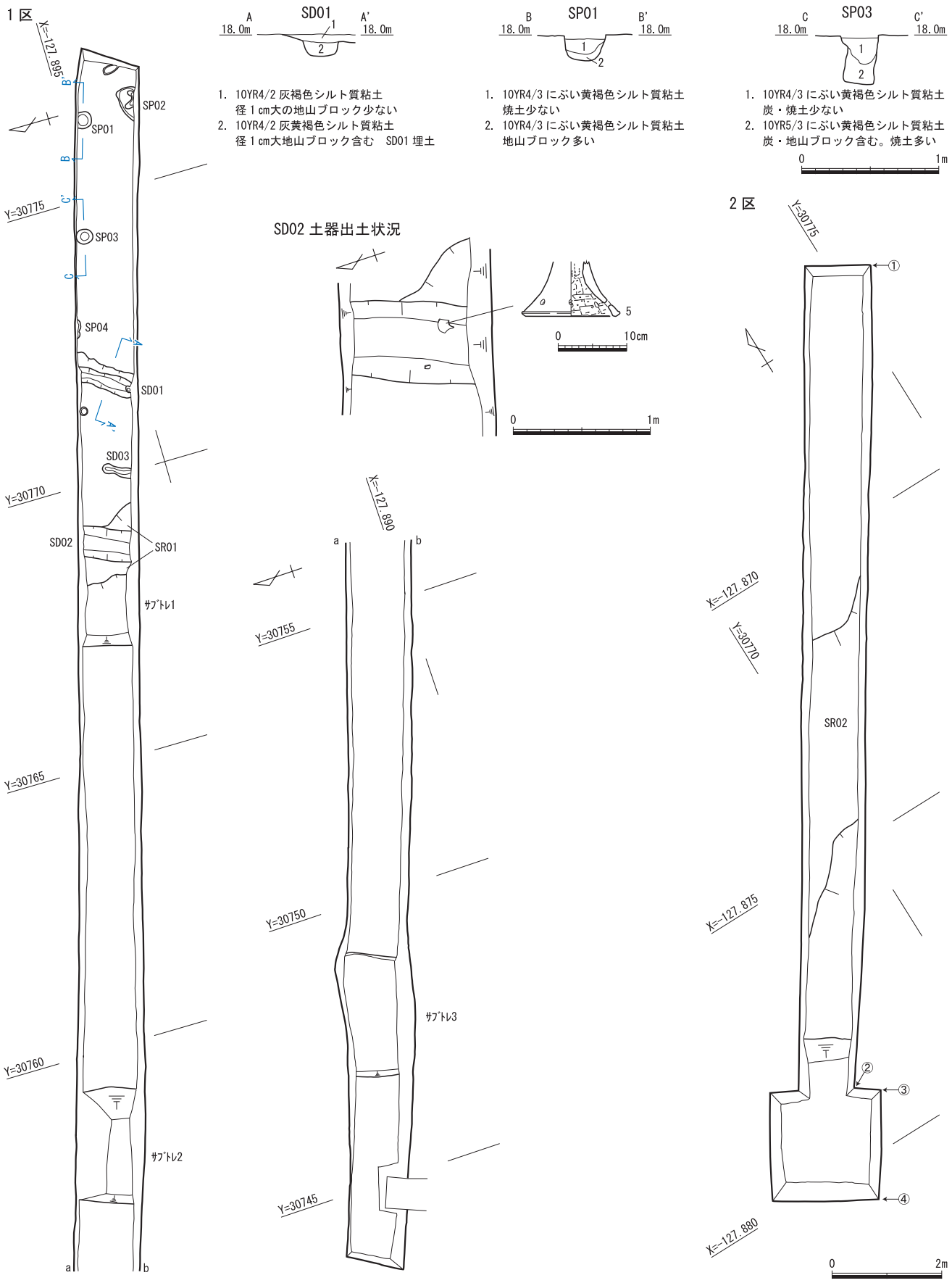
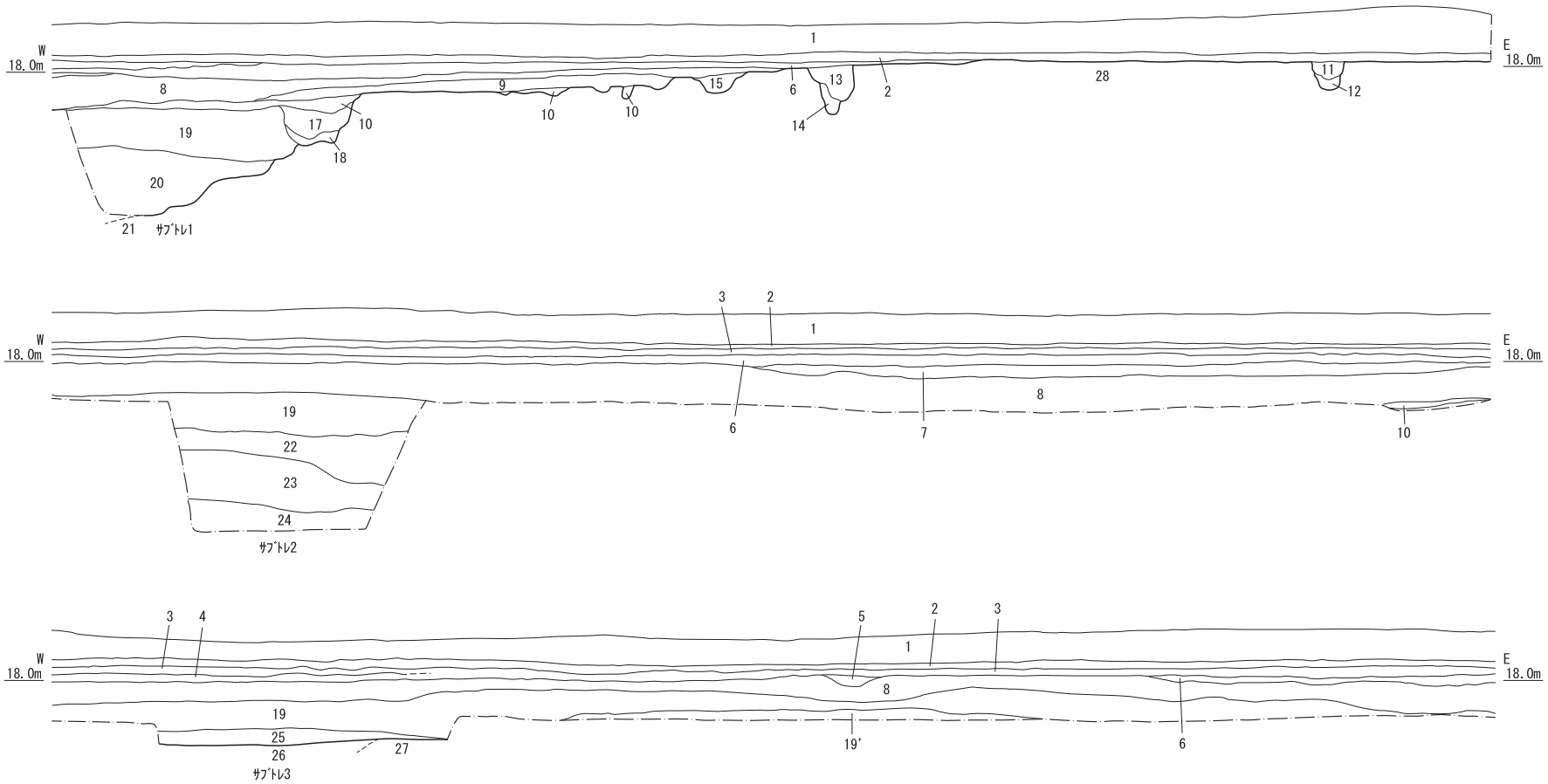


図3　1区・2区平面図（S=1：100）、SD01・SP01・SP03断面図（S=1：40）、SD02土器出土状況図（S=1：40）



1. 耕土
2. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土　床土
3. 2.5Y6/6 暗黄褐色シルト質粘土　酸化鉄集積
4. 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土　Mn 少ない
5. 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土　Mn 集積
6. 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土　Mn 少ない
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土　Mn 少ない
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土　Mn 集積　遺物包含層
9. 10YR4/2 灰褐色シルト質粘土　径 1 cm大の地山ブロック少ない　遺物包含層
10. 7.5YR4/2 灰褐色シルト質粘土　径 1 cm大地山ブロック混じる　遺物包含層
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土　焼土少ない　SP01 埋土
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土　地山ブロック多い　SP01 埋土
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土　地山ブロック少ない　SP04 埋土
14. 10YR5/1 褐灰色シルト質細砂　SP04 埋土
15. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土　径 1 cm大地山ブロック含む　SD01 埋土
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土　地山ブロック混じる
17. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土　SD02 埋土
18. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土　地山ブロック含む　SD02 埋土
19. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　SR01 埋土
19'. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土　小礫～拳大円礫含む
20. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト～砂質土　ラミナ状堆積　大形の土器片含む　SR01 埋土
21. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土　SR01 埋土
22. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト　土器片包含　SR01 埋土
23. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　土器片包含　SR01 埋土
24. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質粘土　土器片包含　SR01 埋土
25. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土　細砂～中砂　SR01 埋土
26. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト　締まる
27. 砂礫　固く締まる
28. 10YR7/6 ～ 5Y3/1 明黄褐色シルト質粘土～オリーブ黒色質粘土　基盤層

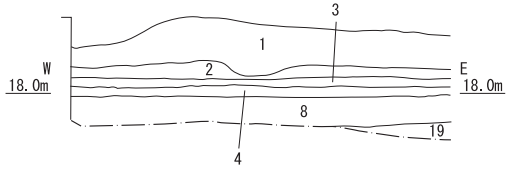


図4　1区北壁土層断面図（S=1：50）

0　1m

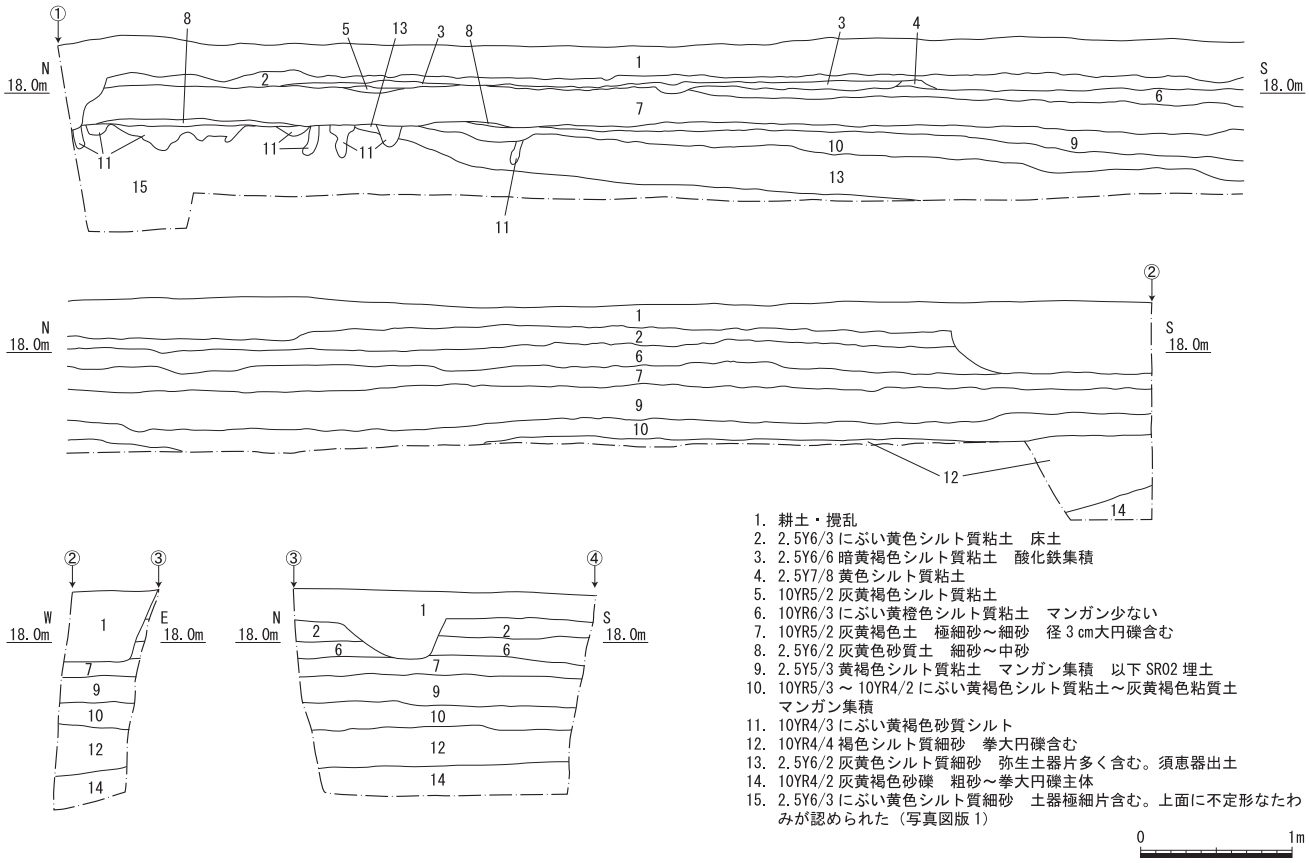


図5　2区東壁土層断面図（S=1：50）

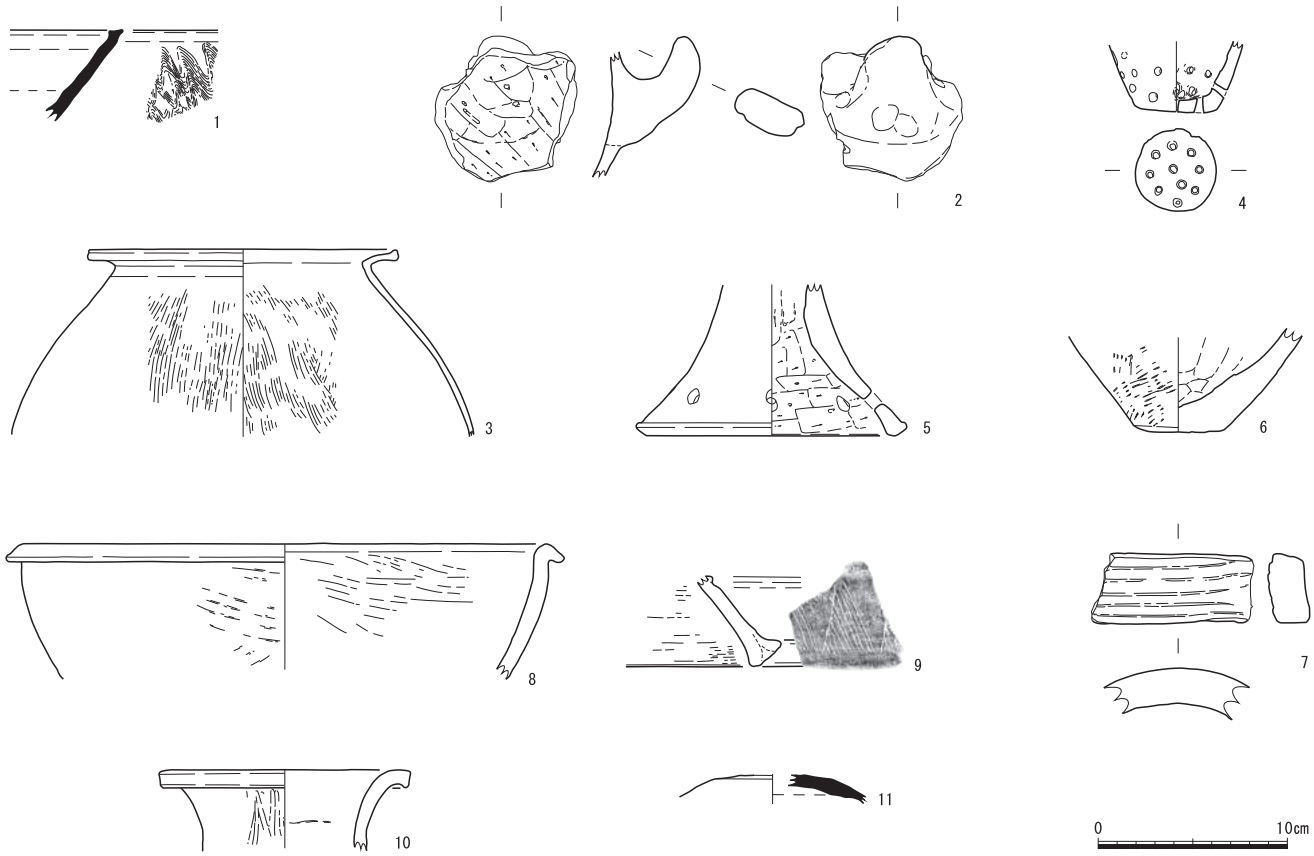


図6　出土遺物実測図（S=1：4）

SD01 断面（北から）

SD02 弥生土器高杯（5）出土状況（北から）

1 区北壁（ｻﾌﾞﾄﾚ1 周辺・南西から）

1 区北壁（ｻﾌﾞﾄﾚ2 周辺・南西から）

2 区 SR02 15 層上面のたわみ（北から）

2 区東壁（南西から）

1 区 SR01 東端から 1 区東端（西から）

2 区全景（南から）

写真図版 2

1

2

3

5

7

4

8

9

出土遺物写真

報告書抄録

ふりがな	つじいいせき　だい３９じはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	辻井遺跡－第39次発掘調査報告書－							
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第75集							
編著者名	南　憲和							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1　　TEL (079) 252-3950							
発行年月日	平成31年 (2019年) 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
つじいいせき 辻井遺跡	ひょうごけんひめじしきたいまじゅく 兵庫県姫路市北今宿 にちょうめ 二丁目177番2	28201	020162	34° 50′ 48″	134° 40′ 11″	2018.3.23 ～ 2018.3.31	52.5㎡	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺跡調査番号
辻井遺跡	集落跡	弥生～古墳時代	溝・ピット	弥生土器・須恵器	20170550

例言

1. 本書は、姫路市北今宿二丁目 177 番 2 で実施した辻井遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は昭和住宅株式会社から委託を受け、姫路市が実施した。
3. 調査は姫路市埋蔵文化財センターの南憲和が担当した。
4. 本書の執筆・編集は南がおこなった。
5. 調査に関する写真・図版等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターが保管している。
6. 標高値は、東京湾平均海面 (T.P.) を標準としている。方位は座標北を示す。
7. 土層名の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に準拠した。
8. 遺構は、原則的にアルファベットと数字を組み合わせた番号で表記した。略称は、SD－溝、SP－ピット、SR－旧河道を表す。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第75集

辻井遺跡-第39次発掘調査報告書-

編　　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発　　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発 行 日　平成31年 (2019年) 3月31日
印刷・製本　株式会社デイリー印刷
〒671-0218　兵庫県姫路市飾東町庄57-2